

## 土砂災害(特別)警戒区域とは

### ●土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

崩壊等が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれのある区域

### ●土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

崩壊等が発生した場合に、住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれのある区域

## 土砂災害の知識

台風や集中豪雨、地震などにより、いろいろな土砂災害が予想されます。特に造成地や、河川敷、山岳地帯などでは、十分な警戒が必要です。土砂災害警戒情報に注意しましょう!

### ●がけ崩れ

急な斜面が大雨等によって緩み、とつぜん崩れ落ちる現象です。



### ●土石流

谷や溪流から、土砂や石、木を含んだ濁流が、すごい勢いで押し流される現象です。



### ●地すべり

比較的広い範囲にわたり雨水を含んだ土地が、ゆっくりと動き出す現象です。



## 土砂災害が起こる前兆

土砂災害のほとんどは、梅雨や台風の時期に発生しています。長雨や大雨により地面に大量の水がしみ込み、弱くなった斜面が崩れるためです。それらの前兆となる現象を理解しておきましょう。

### ○がけ崩れの前兆現象

- がけから小石がパラパラと落ちてくる
- がけから水が湧き出る
- がけに割れ目ができる



### ○土石流の前兆現象

- 「山鳴り」といって、山全体がうなるような音がする
- 川の流が濁ったり、流木が混じっている
- 雨が降り続けているのに、川の水が減っている



### ○地すべりの前兆現象

- 井戸の水が濁る
- 地面がひび割れたり、一部が陥没あるいは隆起する
- 池や沼の水の量が急激に変化する



## 土砂災害時の避難のポイント

- 土砂災害警戒区域や土砂災害危険箇所から、できるだけ早く外に出る。
- 周囲の状況を確認し、できるだけ浸水していない場所を歩く。
- 土石流の場合は、土砂の流れる方向に対してできるだけ直角に避難する。
- 屋外への避難が困難な場合は、建物の斜面とは反対側の2階以上の部屋へ移動する。
- 深夜など、外が暗くて避難することが危険な場合は、無理な外出をしない。



## 避難の心得

### 正確な情報の入手

テレビ・ラジオで最新の気象情報などに注意しましょう。雨の降り方などに注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



### 徒歩での避難が基本

車での移動は緊急車両の通行の妨げになります。また、浸水すると車が動かなくなるので、特別な場合を除き、徒歩で避難しましょう。



### 避難する前の確認

避難する前に、電気・ガスなどの火を消し、避難所の位置を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難することを連絡しておきましょう。



### 要配慮者への協力

お年寄りや子どもなどは早めの避難が必要です。近所のお年寄りが避難する場合には、協力しましょう。



### 安全な避難路を選ぶ

避難はできるだけ高い道路を選び、水路などには十分注意しましょう。また土砂災害警戒区域を避けるようにしましょう。



### 万が一、逃げ遅れたときは

万が一避難が遅れ、危険が迫ったときは、丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。



### 非常持出品の事前準備を

避難するときの荷物は必要最小限とし、事前に準備しておきましょう。



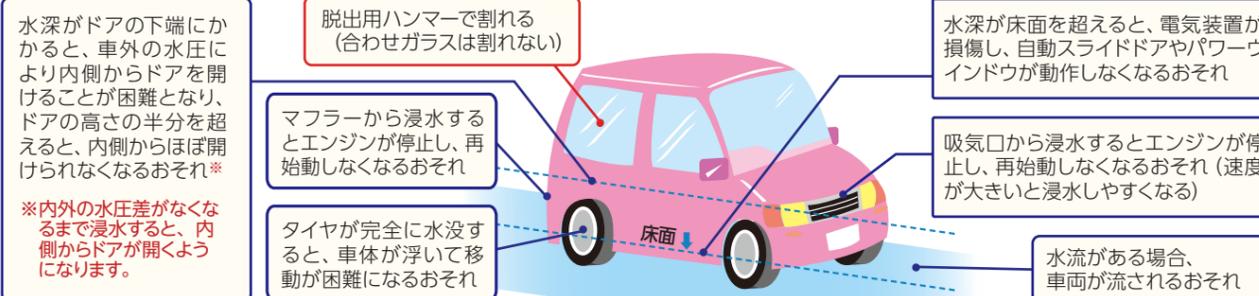
### ペットの同行を

飼い主が責任をもって管理しましょう。避難所では他の避難者への影響をふまえ、人と離れた別の場所に避難することになります。



## 自動車による避難のリスク

自動車が冠水した道路を走行する場合、水深が車両の床面を超えると、エンジン、電気装置等に不具合が発生するおそれがあります。また、水深がドアの高さの半分を超えると、ドアを内側からほぼ開けられなくなります。



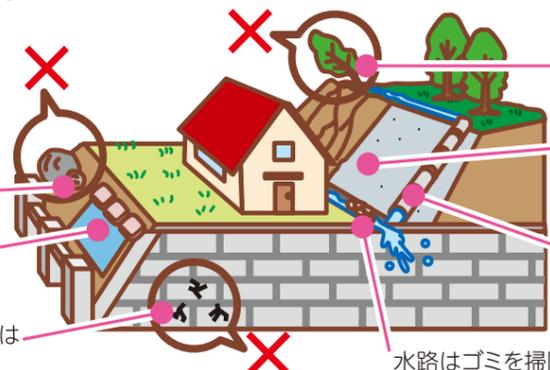
## 土砂災害の予防策

斜面の状態の変化に十分注意しましょう!

落ちそうな岩や土のかたまりは撤去する。

崩れそうな所は木や板の柵、石積をする。

こわれた石垣などは修理や補強を。



風でゆれる大きな木は地面をゆさぶられないよう枝を切る。

がけの危険な部分はビニールなどで覆い、雨水の浸みこみを防ぐ。

雨水をがけに流さないように水路を造る。

水路はゴミを掃除する。

## 避難するときの服装

- ヘルメット、帽子等をかぶる。
- 非常持ち出し袋はリュックサックに入れて背負う。(両手が使えるように)
- 長袖・長ズボンを着用する。
- 軍手や手袋をはめる。
- 靴は底の厚い、履き慣れたものを着用する。
- やむをえず夜間に避難する際は懐中電灯を持つ。

